Nadeshiko-no-Kai Report

東京学芸大学 附属小金井小学校 ● 同窓会

撫子の会

小学校は
エンピツの
匂い

会報 20 号

今号からヨコ組にリニューアルしました。

総会・懇親会レポ

昨秋 2019 年 11 月 17 日(日) 母校にて
撫子の会 定例総会を開催し
役員改選をしました。
懇親会で
ヴィオラ演奏を楽しみました。

ぶらり同窓会

2019.11.7.(日)午後 母校で

報告：理事／小金井 S58 卒　**吉田朋弘**

案内状での「**ぶらり**」の呼掛けは、豊島や追分の先輩方には「今の母校、小金井卒の皆さんには「懐かしい母校で開く総会に気軽くお出かけ下さいというお声掛け。４０名ほどの出席者には豊島卒が多く小金井校は初めてという方が大半でした。

総会は次のとおり進行しました。

１．開　　会……司　会　吉田朋弘

２．挨　　拶……会　長　佐々智樹

３．議案審議……議　長　佐々智樹

第１号議案：決算報告

事前送付の会報 19 号に掲載した平成 28,29 年度収支決算報告および監査報告があり承認されました。(収入合計￥15,646,306- 支出合計：収入と同額 うち次年度繰越金￥13,655,830-)

第２号議案：役員改選

満期に伴う選出について、候補者がないため佐々会長より理事・監事・顧問の候補者案が読み上げられ承認されました。(右表)

第３号議案：その他

特になし

４．閉　　会……副会長　川田紀雄

このあと懇親会に移りました（次頁へ)。

解説　●「撫子の会」の事業年度は学校と同じく４月～３月です。これにより年度報告する定例総会は４月以降のなるべく早い時が望ましいのですが、予算都合により会場を母校にしており、また学校側の事情もあり、毎年秋の開催になっています。ご了解のほどお願いいたします。

●会長と副会長は理事の互選にもとづいています。この度の選任による新役員および理事互選による役職は次のとおりです。

新役員（議案２）

次の方々が選任されました／任期２年(2020 年度まで)

会　　長……野久尾　悟……小金井 S51 卒

副 会 長……川田　紀雄……小金井 S41 〃

吉田　朋弘……小金井 S58 〃

理　　事……大鹿　晏弘……豊　島 S30 〃

山佐　和雄……追　分 S33 〃

柴田　道彦……豊　島 S35 〃

石原康一郎……豊　島 S38 〃

神田　　薫 ……小金井 S46 〃

保坂　健治……小金井 S52 〃

清水　洋岐……小金井 S56 〃

浦田　智則……小金井 S60 〃

監　　事……丸森　康平……小金井 S51 〃

楠本　維大……小金井 S58 〃

顧　　問……佐々　智樹……小金井 S39 〃

特別顧問 * …青木　輝彦……豊　島 S30 〃

* 記念碑移設事業アドバイザー

なお次の方が退任されました。

顧　　問……藤田　輝夫……豊　島 S19 〃

金子　修也……追　分 S25 〃

写真：報告する佐々木前会長／着席者の右が野久尾新会長

新しい時代に
共に動き出しましょう

新会長
野久尾 悟

新年号に代わり、新しい時代になりました。「撫子の会」も新しい時代の到来に先駆けて、動き出したことをご報告させていただきます。

昨年 11 月 18 日に開催されました総会において理事に再任していただき、12 月 9 日の理事会において会長に選任いただきました。併せて、吉田明弘さん（小金井 昭和 58 年卒）に新たに副会長に就任していただきました。 また、撫子の会の設立のために奔走され、40 年以上にわたり同窓会活動にご尽力下さいました佐々前会長には顧問にご就任いただき、大所高所からご指導いただくことになりました。川田紀雄（小金井 昭和 41 年卒）さんには引き続き副会長として、同窓会の伝統の継承・後進の育成をお願いいたしました。

私たちはこれまで、豊島・追分・小金井の伝統を引き継ぐべく、三校を統合した同窓会としてその基盤づくりを行ってきました。母校の先生方の他校への異動が以前より頻繁になったことによる卒業生との関係の変化、SNS の普及による人びとの集い、絆を確認し合う方法も多様化してきたことから「同窓会」に求められているものが少しずつ変化してきていることを肌感覚として実感しています。母校、そして、仲間たちとのつながりを補完する機能としての「同窓会」は、今後どうあるべきなのでしょうか？

今の同窓会に、母校や在校の後輩たちに多額の寄付や便宜を図る力は、正直ありません。またモノを言う団体として、多くの意見をとりまとめ発言力を強めていくことにも積極的な理由は見つかりません。

私たちの「同窓会」を、私たちの手で、あるべきカタチを模索し、創り上げ、次世代へと繋いでいきましょう。これは、新たなスタートです。

それには皆さまのご理解とご協力が何より重要です。ご提案・ご意見をお寄せください。

共に動き出しましょう、新たな「同窓会」を求めて。

♪懇親会♩

秋の日の昼下がり、母校食堂にて撫子の会総会、ヴィオラ・コンサートに続き懇親会を行いました。

窓の外の校庭からはサッカーに興じる後輩たちの声が聞こえるとても和やかな雰囲気のなかで、会は佐々会長の乾杯のご発声でスタートしました。

今年はヴィオラ・コンサートの開催効果もあったでしょうか例年を上回るご参加があり、最年長は８６歳の先輩から二十代の若い後輩までが一堂に会し、同じ撫子の校章のもと、穏やかで贅沢な時を過ごしました。　担当理事：**清水洋岐**

このミニコンには演奏者・川口彩子さんと豊島校同期の大鹿晏弘理事のお力添えがありました。ピアノは準備不可なので無伴奏でと勝手なお願いをしたところ、なんと想定外、南米のハープ＝アルパの池山さんとお二人でとなり、午後の素敵な一刻が実現しました。終曲の「ウィーンわが夢の街」はウィーンの酒場で「第三の男」と並ぶ定番曲。余韻が懇親会のワインに重奏しました。

♪♪♪♪♪

川口彩子さん：豊島小 S30 年卒。東京藝術大学で学び世界各国にて公演。近年は邦楽との共演などど多彩にご活躍です。

詳しくは当日の案内状にてご紹介させていただきました。

池山由香さん：国立音大、桐朋学園で声楽を学びアルパとは少女時代ブエノスアイレスで出会い、日本では少ない“アルパ弾き語り奏者”です。

ヴィオラとアルパの奏で

♪この日の 14 曲♪

♬ヴィオラとアルパ♬

サウンド・オブ・ミュージック 同映画より…R.ロジャース
ロシアより愛を込めて 007 より…L.バート
ララのテーマ ドクトル・ジバゴより…M.ジャール
魅惑のワルツ 昼下がりの情事より…F.D.マルケッティー
ベサメ・ムーチョ …C.ベラスケス
見果てぬ夢 ラ・マンチャの男より…M.ライヒ
エターナリー ライムライトより…C.チャップリン
慕情 同映画より…S.フェイン
エンタテイナー スティングより…S.ジョプリン
夢見る想い …マリオ・パンツェリ

♩ ヴィオラ・ソロ ♩

太陽がいっぱい 同映画より…N.ロータ
ロミオとジュリエット 同映画より…N.ロータ
間奏曲 カヴァレリア・ルスティカーナ…P.マスカーナ
ウィーンわが夢の街 …R.ズィーツィンスキー

秋の武蔵野 午後の母校

♪茜色の世界を感じながら♪

小金井 S46 年卒　　**宮下真美**

同窓会の楽しみは同窓生とのお喋りや母校の現在の様子を知ることなどがありますが、今回は懇親会でのミニコンサートもとても楽しみでした。

ヴィオラは広く一般的に知られている楽器ですが、「アルパってなんですか？」という問いかけをもって懇親会に参加しました。

アルパは見た目も可愛いハープで重さ十キロぐらい。爪を付けずに演奏し、ペダルもありません。もともとはパラグアイの民族楽器で演奏曲もラテン系が多いそうです。今回の演奏はソロありデュオあり、映画音楽を十曲あまり。どれも耳にしたことがある親しみのある曲で、晩秋の昼下がりにとてもよい雰囲気です。ヴィオラとアルパの織りなす美しいハーモニーに出席者全員がすぐに引込まれていきました。

以前から好きだったヴィオラは、ヴァイオリンとは一味違う、柔らかで艶やかなその独特の音色が身体中に響き渡って癒され感たっぷり、そしてアルパのエレガントでありながらクリアで躍動感のある音色からは元気をいただきました。音楽の道でご活躍のお二人にお会いできたこと、お二人が楽しく演奏して下さったことを嬉しく思います。

音響設備の整ったコンサートホールでの演奏会はもちろん感動に浸ることができますが、懐かしい校舎、窓からは子供の頃走り回った運動場がみえる部屋で、演奏者のすぐそばで生演奏を楽しむことができるのは幸せなことだと思います。思えば母校は音楽教育も熱心で、音楽に慣れ親しむことを自然な形で教えてくれました。そんな母校を

卒業した者が集う同窓会ならではの楽しい企画でした。

演奏を聴きながら小学校時代を思い出したり、映画音楽が流行ったころのことが思い出されたり、何というか、茜色の世界を感じながらの和やかで心地よいひと刻でした。（了）

♬ヴィオラ演奏をして♬

演奏者／豊島 S30 年卒　　**川口彩子**

昭和 20 年代の池袋駅西口には 貫禄あるコンクリート３階建ての東京学芸大学附属豊島小学校が、第二次世界大戦をくぐり抜け、足元には戦後復興に向けて底知れぬエネルギーを拡散するヤミ市や居酒屋を従えて聳え立っていた。電車通学をしていた私は駅から数分の間ながら、その猥雑な通りを朝夕足早に通り過ぎる毎日を送っていた。やがて池袋駅西口の東京都再開発事業に因って、校舎跡地には東京藝術劇場が建った。西口公園の一角に豊島小ありきの石碑を残すのみで 1964 年に母校校舎は都下小金井市の広大な東京学芸大学構内に移転した。

秋晴れの 11 月 17 日（土）に豊島小学校同窓会（注：小金井小学校同窓会・撫子の会）平成 30 年度同窓会総会が開催された小金井の東京学芸大学構内に向かった。今年の同窓会では生音楽を聴きたい…ということでヴィオラを奏する私が候補にあがった由で「ピアノは無いけれどよろしく！」と夏の頃、同期生の大鹿理事から連絡をもらったのであった。その広大な構内の東南の角に附属小金井小学校は存在している。既に豊島の名は無く、附属小金井小学校となった校舎に入ると同窓会幹事が数名、案内準備に立ち回っていた。大鹿晏弘氏に案内されて校長室へ。昭和 46 年卒の神田薫さんが歓迎して下さった。ピアノは無いけど…という話だったので、友人の若いアルパ（南米のハープ）奏者、池山由香さんを同行。校長室には歴代校長先生の写真が掲げられていたが、卒業して半世紀以上経った私たちの校長先生の額が並ぶスペースは無く、改めて時の流れを感じさせられた。その中に黄色く退色した紙が二枚ばかり額に入れられて壁の中央に飾られていたが、それこそが私たちがお世話になったお世話になった時代の先生方の寄せ書きで、３年生の２学期に就任され卒業まで担任をして頂いた故小林森先生の立派な墨書もあった。さらには音楽を指導された田中準先生の名も！

疎開先では人前で歌うことに何故か抵抗があり、音楽の成績のみ「可」の評価だった私は、小林先生と前後して豊島小学校に転校し「誰も私の音痴を知らない！」とばかり田中先生の前では思い切り歌うことができ、思いがけず大層なお褒めに預かった。以来、クラスでの歓迎会等には前に出て校歌のリードをしたり…と、音楽の道に一歩踏み出したのである。５年生の頃になると身体も成長し、母は押し入れ深くに仕まい込んでいたヴァイオリンなる物を取り出した。母は大学生時代、寮と道路を挟んで住んでいたヴァイオリンの先生に数年間習った由。私は全く知らなかったが、戦火を逃れて疎開先に持ち歩いていた楽器であった。田中先生の奥様に、学校帰りにご自宅に寄って手ほどきを受けた。やがて渋谷区代々木西原の自宅近くに住む、東京藝術大学を卒業して間もない、川田敦子先生に習うようになった。特に専門家になるつもりもなく続けていたが、高校卒業が近づいたときに、東京藝大への進学を希望。川田先生からは、私の性格、体格を案配の上、当時習得する人がほとんどいないヴィオラを是非にと先生を紹介頂き、以来半世紀以上に亘り演奏活動を続けている。ヴィオラは私を日本のみならずアジア・

アメリカ・ヨーロッパの、各地に連れて行ってくれた。

同窓会当日は、中年以降の方々の参加が多いということで、昔懐かしい映画音楽を中心に演奏し楽しんで頂いた。実業界、教育分野、音楽、美術、建築設計等多方面でご活躍された方々のご参加も多く、豊島・追分・小金井小学校卒業生の層の厚さを改めて認識させられた秋の日の午後であった。

母校から

創立 110 周年を迎えて

副校長　**関田義博**

令和元年度、本校は、豊島師範附属小の創立から数えて 110 周年、東京学芸大学附属小金井小学校の開校から 60 周年を迎えます。本来ですと、今年度中に記念行事を行うべきですが、記念式典等の実施は 2020 年度に行うことにしました。その理由は二つあります。一つは、記念行事を東京オリンピックに合わせて実施するということです。もう一つは、記念事業を 1 年後に先送りすることで、そのための積立金を増やすということです。
大きな事業としては、老朽化した第一運動場の改修です。できれば 2020 年度の夏休みか冬休みに改修を行い、休み明けには「2020 & 111」という人文字を全員でつくり、本校舎の屋上から記念撮影をしたいと考えています。

●

ところで、今年度も本校はおだやかに新年度を迎えることができました。4 月の児童数は 618 名です。毎年、教育活動を展開するうえで教育指針を設定していますが、今年度の教育指針は「つな

♡ School Life Now ♡

がりと目標を大切にして、おたがいに高め合っていこう」としました。

つながりとは、連携とか絆です。目標については、達成度としての目標と、「目指すべき人としての目標」という二つの目標を設定しました。目指すべき人としての目標という視点を取り入れたところが　今年度の新たな試みです。昨年度NHK大河ドラマの主人公であった西郷隆盛は、薩摩藩主の島津斉彬を目標にして人生を全うしました。島津斉彬がいなければ西郷隆盛という人物は出てこなかったとも言われています。自分が成長していくうえでの人としての目標を、子どもたちにも意識させたいと考えました。

また、道徳や哲学には「もう一人の自分」という考え方があります。憧れや目標は「こうなりたい」とか「こうありたい」という、もう一人の自分でもあります。子どもたちには、自分を律してくれる、自分を高めてくれるもう一人の自分を横に置いて成長してほしいと思います。

今年度の学校経営計画と教育指針については、本校のホームページでご覧いただくことができます。同窓生の方々にもぜひご一読いただき、ご意見等をお寄せいただきたく存じます。

●

ところで2021年から、大学入試は今のセンター試験から「大学入試共通テスト」に変わります。内容面では、国語と数学に新たに記述式問題が導入され、英語に関しては従来の「読む」「聞く」に、新たに「書く」「話す」といった技能が加わると言われています。英語の「話す」を重視してしまうと帰国生に優利に働きすぎるという指摘や、業者による試験への不信等がある一方、国語と数学の記述式に関しては今回の改革の目玉というのが大方の見方です。

記述式への移行が求めているもの、それは子どもたちに「読解力」と「論理的思考力（＋表現力）」を育んでほしいというメッセージです。そして、読解力と論理的思考力を高めるための授業のあり方が、アクティブラーンニング（主体的・対話的で深い学び）ということになります。本校が求めている授業のあり方も、もちろんアクティブラーニングです。知識や技能を活用し、実生活における社会や自然などの問題を主体的に追求することを目標にしています。

●

本校の子どもたちが将来に活躍する社会は、グローバル化、AI化、社会構造の変化など、様々な予測がなされています。そのような社会を生き抜いていくため、自分や他者そして未来と向き合い、自分自身を日々更新する（こえていく）ことが必要と考えます。

ちなみに、鵜原湾において遠泳の同志である武蔵中学校は、「自ら調べ自ら考える子ども」「自ら考え生み出す力を持つ人間」の育成を教育方針に掲げています。武蔵中学校は、いわゆる受験予備校とか偏差値至上主義といったこととは無縁の学校です。他者を大切にする共感力の育成にも力を入れています。有名大学に合格することだけを目標にしているのではなく、国や社会で活躍する真のエリートの育成に力を注いでいます。そんな武

蔵中学校２年生の海浜学校ですが、学寮の老朽化等の理由により、2018 年度で歴史に幕を閉じてしまいました。ほんとうに残念な限りですが、本校は遠泳をやめた武蔵、跡見などの想いも受け継ぎながら、至楽荘生活を基幹の教育活動として今後も続けていきたいと考えます。（了）

源流地　池袋レポ

創立 **110** 周年

その水源地の池袋にあった豊島校舎の歴史紹介と記念碑保存プロジェクト進行の経過報告です。

豊島校々舎の歴史

小金井Ｓ39 年卒　**佐々智樹**

佐々前会長は小金井の第１期卒ですが、５年生まで豊島校舎で学びました。（編集註）

池袋の小学校々舎の歴史を年表で追ってみると大正 14 年 12 月に火災で校舎を喪失し、翌 15 年７月より鉄筋コンクリート三階建ての新校舎の建築が始まり昭和２年 12 月に新校舎工事完成。

しかし 昭和 20 年４月の空襲により附属小学校の校舎を残して全校焼失。それに伴い 22 年１月に師範学校は小金井町にあった元陸軍技術研究所跡地に移転することが決定。小学校々校舎は廃校にともない 44 年８月に解体工事が始まったようです。

私の通った頃の豊島小学校は空襲で焼け残った煤けた校舎と小学校としては広すぎる敷地を持った古いけれども贅沢な校舎でした。記録では昭和 23 年に 小学校用地 6,297 坪を残して 7,789 坪を大蔵省に返還。９月には東京都が突然附属小学校用地 4,200 坪に対し換地要求を通告して来たとあります。移転の問題は早くからあったようです。

豊島小学校を後にしてはや 55 年近い年月が流れ、学校の記憶も薄れていますが、私の通っていた当時は各学年３組、男女半々で１クラスおよそ 40 名。６年までクラス替えなし。音楽室・美術室家庭科室・理科室・給食室・保健室・放送室などがあり、体育館とプールも整い大変恵まれた環境でした。

運動場はコの字の形をした校舎に挟まれたコンクリート敷の第一運動場、体育館の横にテニスコート、それから第二運動場（サッカー、野球練習場だったか？）、さらに 運動会の時にしか使わなかった第三運動場（…バッタ取りで走り回っていた）。そして プールの脇には藤棚と池、その裏側は三角地帯と呼んでいた謎の空き地。写真で見るとそれぞれの運動場はフェンスで仕切られており、第一運動場とテニスコートの間に鉄棒や百葉箱に小動物の飼育舎がありました。

当時は新宿と並んで人気の高かった街、池袋。その真ん中にこれほど広大な敷地を持っていたのですから池袋の再開発に呑み込まれてしまったのは、時代の流れだったと思っています。（了）

周囲に高い建物がない時代 ３階建校舎は目立ちました。

写真：次頁につづく

豊かな緑
広いグランド
懐かしい学び舎
思い出の豊島

なぜ広いキャンパスが？

1909（明治 42）年この地に東京府豊島師範学校が開校された頃のこの地の住所は、なんと

《 北豊島郡巣鴨村大字池袋 》

というものでした。このことからも分かるように、当時の池袋は東京の市街地がその後西へ、多摩へと開発されていくフロンティアすなわち最前線でした。そのため理想的学園のための広い土地を得ることができたともいえるでしょう。

今の池袋駅西口の一帯へ

1963（S39）年 3 月に小金井への移転が完了するとともにこの広い跡地は東京都に移管され、池袋駅西口一帯の開発に組み込まれ、東京芸術劇場を含み人びとの〈文化と憩いの地〉として生き続けることになりました。

記念碑はこうした歴史を証しています。

その記念碑の
保存移設工事が
今秋 11 月完了 完成！

母校創立 110 周年に偶然重なる保存事業。
撫子の会は建築家で設計施工に通じる川田副会長と豊島区に通じている青木特別顧問を中心に進めています。その中間報告です。

担当理事：副会長 豊島 S41 卒　**川田紀雄**
特別顧問 豊島 S30 卒　**青木輝彦**

平成 31 年 4 月現在、遅れて いた業者選定も終了し 仮囲いの中では写真のような状況で本年 11 月の完成を目指して、順調に工事は進んでいます。記念碑および説明板は丁寧に梱包養生され、設置場所から 200 メートルほど離れた西池袋公園に用意された仮区画の中に保管されています。

移設箇所は会場正面舞台棟に向かってすぐ左隣の植栽＝ショヒドミナールの桜の木の脇に予定されています。舞台を見にくる多くの観衆の目に触れやすいのではないかと期待しています。

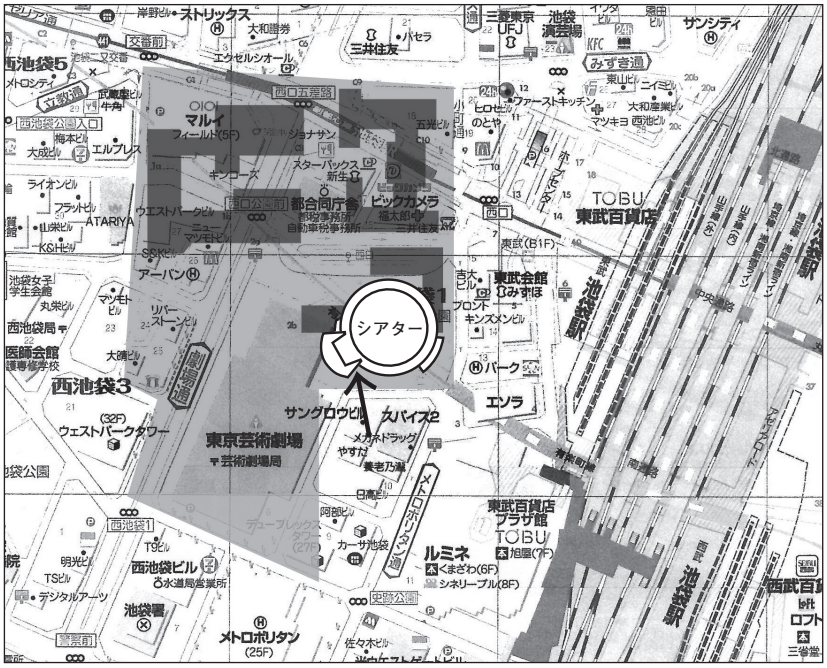
同窓会としては再設置にあたり説明板については文面を改め、支持躯体も材質・加工・設置方法など耐久性の高いものに変更することを検討しています。

この記念碑はそもそもの設置後すでに豊島区に移管されているため、説明板の入替え時期は本体の移設がいったん完成した後になるのか、二度手間にならないように保管中に入れ換えるのか、それは新たな寄付となるのか等についてはこれからの協議になります。

？どんな説明板になるのか知りたいよね。
？記念碑の新しい位置は昔の校舎のどのあたりになるんだろう。
？お披露目はどうするかな。
！ともかく無事に収めなければ。

～～～～～

豊島区の関係者によれば 11 月の頭から新公園のオープンに向けたお披露目イベントがいくつか計画されているとのこと。区の広報誌・HP などでお確かめの上ぜひお訪ねください。（了）



写真：完成に向かう工事現場
右図：記念碑と豊島校キャンパスの位置関係 概念図
グレーがキャンパス・濃い部分が校舎・円形は屋外シアター／記念碑はステージの左脇に建つ（矢印）。東京藝術劇場が敷地内の一部に収まるほど広かったことが分かる。

成美荘へのお誘い

訪ねてみませんか？
自然の匂い 成美荘

理事 豊島 S35 卒　**柴田通彦**

成美荘は、昭和 11 年、時の成田千里 東京府豊島師範学校校長の「師範学校は、自然を通じて、正しく、強く、美しい人間教育の道場たらしむ」という理想のもと、小学校の生徒は春には田植え、夏には養魚池で食用カエルの大きなオタマジャクシの採取、秋には畑での芋掘りなど、まさに自然の中での野外生活を楽しみ、貴重な経験を積むことができました。

現在ではその大半が学芸大学の管理下にあり、国際関係の施設もありますが、建設以来成美荘の中核的施設であった木造建築物「養気閣」は、昨 2018 年、老朽化のため惜しくも取り壊されました。更地となった付近一帯は、間近まで住宅が迫るものの、自然豊かなスポットで、黒目川の流れはそのままで、まだ往時の名残が各所に残っており、地元市民の憩いの場ともなっているようです。

池袋から三、四十分。東久留米に往時の空気を訪ねてみてはいかがでしょうか？

ご存知ですか？ オモシロイ物あり
成美教育文化会館の「撫子資料室」

副会長・理事 豊島 S41 卒　**川田紀雄**

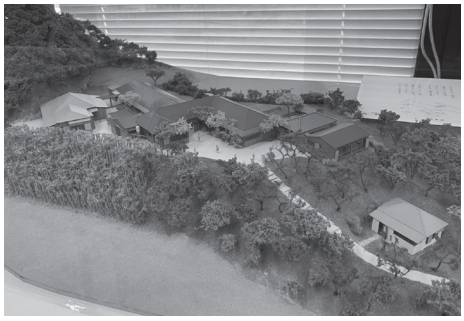
その東久留米の成美教育館 3 階にこの資料室があります。資料は「撫子会」のものなのですが、我々も自由に閲覧できますので、機会と興味とがあれば入室を修練会にお願いしてぜひ見学してみて下さい。オモシロイ物がありますよ。

「撫子会」は旧豊島師範の同窓会で、つまり我々の先生方の会です。ですから資料の中心は今でいえば東京学芸大学同窓会の資料ということになります。会自体は二十年ほど前にもはや新規入会々員もいないということで解散になり、無主物のような状態ですが、我々にも思い出のある資料がいろいろ置いてあります。成美荘養気閣の玄関表札、いま移設中の池袋記念碑の校章レリーフの原型、旧至楽荘の全体模型、いろいろ面白いものを楽しんでいただけると思います。

資料の中でも書類中心に大切なものは現在小金井キャンパスの「大学資料室」に移管され、大切に保存されています。その点数は 773 点にも及びますが、こちらも HP* からの申込みで閲覧は解放されています。（了）

●お申込み
修練会：042-471-6600　受付時間 9:00~16:30（月曜休館）
大学資料室：042-329-7277　受付時間 10:00~16:30

撫子資料室


至楽荘の全景模型

記念碑校章の鋳型原型

サッカー史

寄稿・おたより

心のふるさと小学校
会報でアイデンティティを確認

戦中戦争直後を追分校で送り、長じて高度成長期をまっしぐらに働いた世代。その間に母校はいつの間にか消えてしまった。そうした世代の友からの寄稿です。

事実は小説よりも奇なり…
海外を含め15回転居
住所をよくぞ追跡

追分・S25卒　柳本（やなもと）信一郎

「撫子の会」の会報が送られてきたとき二つの理由で驚きました。

一つは、どうやって私の住所を見つけたかです。戦後の混乱期を経て5回の海外勤務と十数回の引越しを重ね、68年もの年月が経っているのです。この経緯からして私を探し出すのは至難の業だと思っていたからです。

二つ目は、消滅した母校追分小学校が学芸大学附属小金井小学校として三校合併していたことです。追分校はとっくの昔に無くなっていたし、普通の公立校だと思っていました。戦争と戦後の混乱期だったし、（一般の国民学校だった追分校に入学して）学校の由来など気にも留めませんでした。ところが会報で、母校が学芸大学という名門国立大学附属小学校だったことを知り、たいへん嬉しく誇りに思いました。

●15回も転居

私は1937年に文京区本郷で生まれました。世は戦争時代。盧溝橋事件から日中戦争、真珠湾攻撃から日米戦争へと、戦争拡大の時期でした。追分国民学校に入学したのが1944年。米軍B29爆撃機による夜間空襲が相次ぎ、空が真っ赤になったことを思い出します。父は海軍に招集されて不在。危険が迫ったので、父の実家の新潟県に疎開しました。終戦とともに本郷にもどり、小学校の卒業は1950年。それから69年が流れました。

中学・高校から大学まで在住していたのは本郷でしたが、大学を出た1963年以降は海外勤務と引越の連続でした。冷戦の前後2回のベルリン勤務、オランダ、中東のバハレーン、そして英国のケンブリッジと、海外勤務は5回に及び、国内は本郷・練馬・大宮から横浜へと、ほぼ十回引越しています。内外合わせると ほぼ15回の引越となります。

この間、勤務先の会社も3回変わりましたから、この面から私を探すことは無理です。追分小学校時代に住んでいた家もありませんし、母校の追分校も小金井に合併され存在していません。このような経験を辿った私を、どうやって見つけたのでしょうか。まさに奇跡と呼ぶ所以です。

●三校合流の同窓会に出席して

一昨年、2017年の11月、思い切って同窓会に初めて参加しました。このような経緯の私を探し当てた関係者に一度お目にかかりたいと思ったからです。バスを降りて学芸大学正門からキャンパスに入って、あまりに広大なことに驚きました。校舎群や延々と続く銀杏並木に圧倒されました。私はまさに今浦島でした。

会場では戸惑う私を幹事の方々は親切に応対してくれました。しばらく経ったとき、幹事の方が私を知る人に電話をしてくれたのです。電話に出たのは元会長の金子さんでした。開口一番「東大前の本屋さんの柳本さんでしょ？憶えていますよ」と。全く予期せぬ方とお話しできて、たいへん感激しました。

追分小学校は、私にとっては長いあいだ遠い存

在でした。70年近い過去のことだし、現在はもう消えて存在しない小学校という認識しかありませんでした。しかしこの機会を通して私の母校は現在も小金井校として命脈を保っていることを知り、感無量でした。奇跡の撫子誌を拝見し、学芸大学の附属追分小学校で勉強したこと、自分のアイデンティティを初めて明確に知ることができたのは幸運でした。

最後になりますが、この顛末記を記す機会を与えてくださった編集部の皆さまに感謝します。

歴史ある学び舎から、多くの人材が育つよう、祈って止みません。（了）

註：アイデンティティ identity
自己証明ともいい、自分が何者であるかを自他ともに認識すること。自身の出身ルーツを探訪確認するのもそのひとつです。

おたより

集りました！
高貴高齢の私たち？

同期会を開きました

幼馴染みが再会の機会
メンバーを増やして行きたい。

豊島S45卒　柳谷一郎

小学校を昭和45年に卒業した同期は178名。小学校のクラス仲間はお互いの家を行き来する幼馴染みの感覚。いまでも○○のお母さんは奇麗だったと話題に上がる。四つのクラスが4年生になるときに一回だけクラス替えが行われた。そんな仲間が最近集まるのはクラス会ではなく同期全体、それも小中合同の学年会、附属中学では毎年のクラス替えが友達の輪を広げてくれた。話を始めると、一緒のクラスになったことがあるかどうかもわからないけど昔からの親しい仲間で楽しい。学年会にした本音は隣のクラスにいた彼や彼女に会いたいという声が多いから…。

二年前に開催した還暦学年会では、連絡がついたのは全体の約 6 割で実際に集まったのが54名だった。その後もいろんな機会に連絡のつくメンバーには声を掛けて集まっている。

今年も五月の同期の音楽会に約20名が集まり、八月の終りの同期の一時帰国の時にも学年会を計画している。

93歳の父が、80歳を過ぎた頃から亡くなった人が増え、一人で出歩ける友人が急に減ったと嘆いていたのを思い出す。行きがかりで声かけの役割を担っており、いつまで続けられるかわからないがまだまだ再会の機会もメンバーも増やしていきたいと思っている。　（了）

次回はもっと増やすぞ　増えるぞ

輝け！
同期の星たちよ

還暦祝いの集いをしました

豊島S46卒　早川秀則

2019年4月1日が過ぎ、我々同期は皆が還暦を過ぎたことになる。とはいえ、様ざまな事情があって早逝された友がいることを胸に、最初に黙

祷を捧げ冥福を祈りたい。

さて、昨年10月27日の夕刻、東京会館（貿易センタービル３９階）にて附属小金井小学校・中学校合同の還暦同期会が開催された。卒業から丸４８年という遥かな時間を経てすっかり髪のなくなった自分を棚に上げ、目の前の爺様は誰だ、あそこの婆様は誰だとしばし目合わせの時間が必要だったのは私一人か。それでも不思議なもので、じっと顔を見て話を聞いていると半世紀の時を超えて当時の友の姿が蘇ってくるのだ。

1958年といえば、朝のテレビ小説で話題となった世界初のインスタントラーメンが発売され、東京タワーが開業した。だが、あの年以来我々一人一人も負けずに６０年の歴史を刻んで今日を迎えている。今なお現役バリバリで一線で活躍する友も、早々と定年退職して次なる人生を歩み始めた者も、自身の闘病生活や家族の介護に奮闘する友も、まだ皆力強く生きていって欲しい。 55年前、共にあの当たり玉を引き当てた同期の星たちよ、これからも もっとずっと輝け！（了）

これからもずっと輝け 同期の星たち

理事会から

［1］母校にとってキビシイ問題
国立大と附属学校の運営費交付金 ますます減少か？

この問題に連携しようと立ち上がった「全国国立大学附属学校大同窓会」に「撫子の会」として出席してきました。

理事 小金井・S52卒　保坂健二

国立大学は法人化以降、国からの運営費交付金は減少の一途。経営が厳しくなっていると同時に、世間では国立不要論が叫ばれるなど特にその附属学校は自らの存続に関わる危機にあります。学芸大学の附属校も例外でなく、小金井にもそうした予算削減の影響は表れてきています。

このような状況の中、国立大学附属学校の有用性をアピールし、応援する目的で、全附連（全国の国立大学附属学校PTA連合会）の働きかけにより、各界で活躍する全国の国立大学附属学校出身者が発起人となり、去る3月15日に、新宿のハイアットリージェンシー東京において，設立総会と大同同窓会が開催されました。

当日は北は北海道教育大学附属函館中学校から南は鹿児島大学附属小学校まで全国各地の国立大附属小中高の卒業生と全附連の役員の方々が80名ほど集り、親睦を深めました。設立発起人には与野党を問わず多くの国会議員が名を連ねています。ほとんどの方が初対面でも、お互いに「同じ匂いを感じる」のが不思議なところ。役員の挨拶でも触れられたのですが「附属学校は学校行事がとても多い」ということが学校、時代を問わず誰もが頷く共通点でそれだけでも話題は尽きません。

当日は小金井中、附属高校の同窓会役員も参加しておりましたので、連携を取りながら今後のこの同窓会活動の推移を見守りつつ、撫子の会の皆さんにも情報を周知して参りたいと思います。

詳しくは撫子の会HPへ。（了）

http://www.nadeshikonokai.jp

［2］収支決算報告　平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～同 30 年 3 月 1 日）

下記のとおりです。来たる秋の総会に議案として報告し審議していただきます。

（単位：円）

A. 収入の部

科　目	金　額
・前年度繰越金	13,655,830
・ぶらり同窓会当日入金	35,000
・入会金	1,010,000
＊平成 30 年度 3 月卒業生／ 110 名	
・寄付 支援 総会参加費	945,470
・利子	6
収入合計	15,646,306

B. 支出の部

科　目	金　額
・会報 18 号印刷郵送費	1,310,148
・ぶらり同窓会経費	128,571
・慶弔費	16,470
・次年度繰越金	14,191,117-
（以下 2 行余白）	
支出合計	15,646,306

［3］理事会は このように活動しています

監事 小金井 S51 卒　丸森康平

撫子の会の理事会は年間 5 回、いずれかの土日祝の午後 3 時～ 5 時を定例会として、理事の一人のオフィスミーティングルームにて、総勢 13 名、出席平均 10 名ほどで開催しています。

主要な活動内容は

（1）会報の作成・郵送

（2）卒業生父兄への会費納入、会員への寄付のお願い

（3）小学校関連施設の保全援助

（4）定例総会と懇親会の開催

（5）同窓会ホームページの作成と更新　など。

交通費・会議費・その他全て手弁当ですが、決して奇特な人たちの集りというわけではなく、子育て・親の介護・仕事などそれぞれの事情を抱えながらも、母校・同窓生・恩師はじめお世話になった方々への思いを絆に、それぞれの時間をやりくりしながら四半世紀以上活動を続けています。

撫子の会の発起人の一人である前会長は熱海のから新幹線を利用して参加されていました。

平成 30 年度から新会長になり、さらなる発展的活動を模索しながらスタートしたところですが、ほぼ固定的な現メンバーが力尽きるまで続けていくのか、同じ思いを持つ同窓生が意欲的に参加していく会となるのか、難しい岐路に立たされている感じもしています。

（了）

撫子の会　会報 20 号

発行　2019（R 元）　年 9 月
発行責任者　野久尾　悟
編集　神田 薫 ＆ 理事会
印刷　（株）クラシブ

●投稿寄稿のお問合せ先
川田 紀雄（電：042-324-9912）
野久尾 悟（電：03-3720-8023）

●同窓会事務局
東京学芸大学附属小金井小学校内
〒 184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
（電話）042-329-7823（Fax）042-329-7826

●撫子の会郵便振替口座
00100-8-709121　　加入者名：撫子の会